

未来を見据えた私たちのアクション!

私たちの行動が未来をえがく

普通科 二年 有馬 初音

この夏、かごしま青少年海外研修事業におけるシンガポール交流に参加した。私は将来、キャビンアテンダントとして、多くの国や地域の方々と関わり、種子島の良さを伝え、訪れる観光客の数を増やしたいと考えている。シンガポールは、世界中から多くの観光客が訪れる観光都市国家である。今回の交流で、小面積に凝縮された観光地としての魅力や、行き届いた観光政策の一端を覗くことができた。この経験を種子島の観光に活かさればと考え、実際に見て、感じたことをまとめてみる。

まず、行く場所全てがきれいで清潔な印象を受けた。この国では、喫煙やゴミのポイ捨てが厳しく制限されている。喫煙者も少なく、煙草の吸い殻はもちろん、ゴミもほとんどない。ゴミ箱の数が多く、ゴミがすぐ捨てられる環境が整っていた。シンガポールのカラスは、栄養失調のため、日本のカラスより小柄らしい。気になったのは、私が見た限りにおいて、ゴミの分別が全くなされず、液体や



生ゴミも全て同じゴミ箱に捨てられていたことだ。善し悪しは意見が別れるところだが、分別の必要がないからこそ、ゴミを簡単に捨てられ、結果としてポイ捨てが減るという効果が得られたとも考えられなくはない。

余談だが、きれいな都市シンガポールは、実は、日本の清潔な街がモデルとなっているという。随所で注目される日本人のマナーの良さは、世界に誇れる魅力であることは間違いない。

次に、どこに行っても幻滅・退屈させない。実務的な場所にも、飽きさせない工夫を凝らしている。チャンギ国際空港には、最近、世界最大の人口滝が作られた。大きさが美しさにも圧倒されるが、それが空港にあることに衝撃を受けた。ゆっくり休める場所も整っていて、フライトで疲れていても、水の流れを見ながら息抜きができる。印象を与えながら人を癒やせる場所として、アイデアにより、観光名所としての活路を見出した成功例だ。

そして何より、多民族国家であり、多様な宗教や文化を持つ人々が共存することで生まれた、他者を受け入れる国民性は人を惹きつける。日本人は、英語に苦手意識を持つ人が多い上に、他宗教に直接関わる機会が少ないため、見慣れない服装の他宗教の信者に対し、マイナスのイメージを持つ場合もあると聞く。シンガポールは、国の成り立ちが平等を求めるところから始まっているため、国策として人種、宗教の平等を尊重している。例えば、「団地全体での人種集団別の配分を国内の人種構成比に近づける」ことになっている。お互いに認め合い、理解し合い、一つの国で共存するための工夫をしている。そして、その考えが、国民

に浸透しているように感じる。短い時間であったが、シンガポールの方々と接し、言語、宗教、文化などの違いを気にせず、優しく受け入れようとする温かさが伝わってきた。お陰で、私にとってシンガポール滞在は、海外にいるとは思えないくらい、居心地のよいものとなった。

私は、種子島の人の優しさ、温かさを知っていた。そのことも島外の方に知ってほしいと強く願っていた。互いに認め合い、理解し合う人の魅力は、すでに種子島に存在している。うまく活用されるべき、価値ある魅力のはずだ。

シンガポールには、一度訪れた者に、また行きたい、と思わせる要素が詰まっていた。種子島も、政策や施設の充実、住民の意識など、観光地として大きく変革できる要素をまだまだ発掘できるのではないだろうか。

普通科 二年 竹内 藍夏

先日、種子島大学が主催した種子島観光改革という講演会に参加した。講演会では、種子島の観光の改善点と問題点や観光の経済効果を最大化する要素や観光資源などについて話を聞くことが出来た。この講演会後、私なりに種子島の観光政策について考えたので、いくつか紹介したい。一つ目は、種子島を「癒しの島」としてウリにするプランだ。種子島の雄大な海に沈む夕日と夜空に広がる星空は、人々の心を穏やかにし、自分や大切な人についてゆっくり考えたり、過ごしたりする時間として最適だと思った。島内の西海岸一帯に宿泊できる小さいコテージをたくさん設け、二人から三人用の簡易な建物にする。外見と内装をおしゃれにし、ホテルほど建設費用はかからず、キャンプのテントをより快適にするようなイメージだ。天井にはガラスを張って、屋根の部分を開放すると夜には種子島の美しい満点の星空が見える。考えるだけで

わくわくする。

二つ目は、「玄関口をグレートアップ」するプランだ。玄関口としての役割を果たす港と空港は、旅行者が最初に訪れる場所であり、種子島の第一印象だけでなく旅全体の充実度に大きく関わる。そこで、港と空港の歩道にハイビスカスやヤシの木などのイラストを描いたのぼり旗をたくさん設置したり、写真を撮りたくなるような壁画があったりするともっと華やかになると思う。また、観光案内ブースを充実させたい。例えば、体験できるマリンスポーツや工芸品作り、オスヌメの観光スボットや特産品などがひと目で分かるような電子パネルを設置する。また、パネルでは伝えきれない情報や旅のモデルプランをスマホでデータを取得できるようにする。そうすることで、気象に旅の情報を持ち帰ることができ、SNS等でアップする際にも非常に便利で、種子島の魅力の発信にも繋がる。以上のように、旅のスタートで旅行者の期待を膨らませ、滞在中の満足度を高めることは、より多くのリピーターを増やすことに確実に繋がるのではないかと。

講演会を通して、種子島の観光について考え、自分なりの意見を持つことができて非常に良い機会になった。自分の今ある環境を遠くから見ること、この島にすつと住んでいる自分にとっては当たり前だったものが、種子島を活性化させる最高の観光資源だったことに、気が付かされた。地域創生や観光改革は、成功するか分からないリスクが確かにある。しかし、変えようとする事を恐れていては、現状維持もままならずどんどん衰退していくことになってしまふのではないかと。理想と現実のバランスは難しいが、こうありたい!という向上心が原動力になり、自分自身をそして愛する種子島をより良くしていくきっかけになるのだ。私はこれからも地元種子島のために日々夢を膨らませ、未来の種子島に尽力できる人間となりたい。